



江戸末期の南部曲り家を代表する民家として高い評価を得た千葉家



現在の当主、千葉ひろ子さん

【第二章】 曲り家の生活

「映画のセットではない、
生活のにおいがする曲り家。
住み続けているから、
曲り家も生き続ける」

今も生きる曲り家

盛岡へと通じる国道396号沿いの大きな石垣の上に、綾織の町を見下ろすかのように建つ大きな曲り家の「千葉家住宅」。

千葉家はかつて、遠野南部氏より二十石(※1)を給され、肝煎り(※2)を務めた家柄とされる。八百坪ほどの敷地には、主屋としての曲り家を中心に、土蔵や納屋、大工小屋、稲荷社、ハセ小屋、石蔵が配置されている。住宅の建設年代を示す資料は見つかっていないが、一八三〇年代(天保年間)に建てられたと推定されている。かつては、住み込みや通いの使用人などを含め二十五人の家族らと、馬二十頭が寝食を共にしていたという。高台に屋敷を構えた大型の曲り家は、遠野を象徴するものの一つとして、毎年三万人ほどの観光客が訪れている。

現在も残る石垣や曲り家は、一八七〇(明治三年)に亡くなった四代目喜右衛門が、天保の飢饉で苦しむ農民、特に子どもやお年寄りを助けようと、ここに来て何らかの作業をすれば食事を提供することを条件に十年の歳月をかけて建設されたという。今で言えば「失業対策事業を個人の力でやっていったのだ」。

一九六八(昭和四十一年)年にテレビ放映で千葉家が紹介されると、学識者を中心に公開要望が高まったことか

にかけて専門的学術調査を行い、十八年十月に文化庁担当調査官などに調査結果を報告をした。

国民の宝に指定へ

文化庁の文化審議会(石澤良昭会長は十月十九日、千葉家住宅を含む国内十件の建造物を国の重要文化財に指定するよう渡海紀三朗文部科学大臣に答申した。その後、年内に行われる官報告示を経て、重要文化財(建造物)に指定される予定だ。

千葉家は、南部曲り家分布域の南縁に位置するとともに、遠野地方の典型的な平間取りを持つ。文化審議会は、南部曲り家の主屋と、同時期に建てられたとみられる大工小屋、その後大正末期までに整備された稲荷社、土蔵、石蔵の計五棟と、敷地五千五百九十三平方メートルを答申した。土地付きで敷地一帯が指定されるのは珍しい例となる。

文化庁が発表した資料では、今回答申された十件の中でも『特に特筆すべきもの』として、早稲田大学大隈記念講堂(東京都新宿区)とともに千葉家を挙げ、『郊外の山ろくに小城のような屋敷を構える曲り家民家で、江戸末期に建てられた主屋を囲むように、土蔵や稲荷社などの付属屋が建つ。主屋は大型で、座敷の意匠も洗練されており、江戸末期の南部曲り家を代表する民家』としてその価値を評価している。

ら、翌年一般公開を開始。一九七四(昭和四十九年)年には、自費を要して茅葺き屋根の葺き替えを実施してきた。

千葉家は、一九八二(昭和五十七年)公開の映画「遠野物語」のロケにも使用され、同映画がイタリアのサレルノ国際映画祭でグランプリを獲得したのが縁で、サレルノ市と当市は姉妹都市を締結した。

観光施設として公開しながら、ここでは今も家人が生活を続けている。現在の当主、千葉ひろろさんは、敷地の入口にある案内所に自ら立ち、訪れる観光客を笑顔で出迎えている。「観光施設などに移築され、保存されてしまうと映画のセットのように見えてしまう。住み続けていることで生活のにおいがする。生きている曲り家になるんです」と話す。

市は、平成十六年三月十八日に「千葉家および附帯建造物」を市の文化財に指定。その後、十六、十七年度



中庭へと続く廊下のアプローチ

千葉さんは「重要文化財に指定されることにより、農民を助けた先祖の思いが詰まったこの家が永遠に残る。とてもうれしい」と喜びをかみしめる。

市文化課、小向裕明課長補佐は「国の重要文化財指定は、将来にわたり国民全体で守るべきものとして価値が認められたことになる。これから、修復や保全に向けた準備を進めていきたい」と話す。

※1 石：体積の単位で、米穀などを量るのに用いられる。一石は約一八〇リットル。かつて、大名や武士の知行高を表すのにも用いられた

※2 肝煎り：江戸時代の村役人で、庄屋や名主の家のことをいう。

◎重要文化財とは…

文化財保護法に基づき、文化財の重要なものを指定・選定し、現状変更や修理などに一定の制限を課す。一方で、有形の文化財については保存修理・防災・買上げなどにより、また、無形の文化財については伝承者養成や記録作成などに対して助成するなど、保存と活用のために必要な措置を講ずる。

重要文化財のうち、世界文化の見地から特に価値の高いものを国宝に指定して保護している。